

9.11 のこと

9 月 11 日は 2001 年のアメリカ同時多発テロ事件以来、世界中の人にとって忘れられない日となってしまいました。この事件以来世界は急速に変化していったように思えます。何の根拠もないのですが、“ロシアのウクライナ侵略もこの辺の混乱に端を発しているように見えます”というのは、穿ちすぎでしょうか？いずれにせよ人類は、特に為政者の判断で戦いを繰り返し、常に市民が犠牲を強いられてきていますが、人類の危機とも思えるような事態に対して、市民として何もできないことに苛立ちを覚えるのは筆者一人ではないことと想像しています。どうして狂気の沙汰としか思えないようなことを人間は繰り返すのか？という疑問が解けません。

良く知られていますように、スイス生まれの哲学者・ジャン＝ジャック・ルソーは、『狂人の世界で「正気」であるということは、それ自体が狂気なのだ。』という名言を残していますが、今回の戦争はまさにそれに該当する事態だと思うのですがどうでしょうか？

さて、上記の事実とは無関係ですが、実は 9 月 11 日は筆者の誕生日です。多くの人の記憶に残る日が誕生日とは喜んでいいのか悲しんでいいのか、今となっては良くわかりません。大きな声では言えませんが、少なくとも Happy birthday! とは言ってほしくないという気がしていました。ただ、今年の 9.11 は少し事情が違っていました。

筆者は茨城大学が幹事校を務めている「日越大学」(VJU, <https://vju.ac.vn/>) の「気候変動・開発プログラム」(MCCD)で“気候変動災害リスク管理”という講義を分担で担当していますが、第 1 期の MCCD 修了生（修士課程）の数名の OB & OG が日本の大学院で学び、民間企業で仕事をしています。そのうちの 3 名の OG には、LRRI・岸田副代表理事が関わっておられる NPO ブルーアース様が開いていただいたオンライン講話「ベトナム交流譚」（令和 4 年 6 月 25 日）に参加して、筆者の思い出話を聞いてもらいました。司会者の方の手際がよかったこともありまして講話後には積極的な質疑があって楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

実は、これには後日談がありまして、上記のオンライン講話に出席していた茨城県内のコンサルタントに勤務している OG の一人が同僚のベトナム人女性を連れ立って、令和 4 年 9 月 11 日に水戸のベトナム料理店でバースデイランチに家内と一緒に招待してくれました。久しぶりにベトナムのヌードル“ホー”とベトナム式コーヒー（コンデンスミルクと濃いコーヒーを混合したもの）を楽しむことができました。なぜか懐かしい味でした。というのも、過去 20 年の間、毎年のようにベトナムを訪問していた筆者でしたが、ここ数年はコロナ禍や自身の病気もあって訪越できなくなっていました。そのせいもありまして、今回の思いがけないイベントは何とも知れない嬉しさと感謝で一杯でした。併せて、一市民としてはこういうことを通じてしか、国際的な相互理解を進めることはできないのだなと、つくづく思っているところです。

“神仏が おわすというなら 啓示あれ

この混沌を いかに対すべき”

(令和 4 年 9 月 22 日、代表理事・安原一哉)